

SHIRAKOBATO

しらこぼと



1995. 7

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 135

日本野鳥の会 埼玉県支部

これならできる!!

先月号の特集で、改めて当支部の目的や日本野鳥の会の理念をじっくり読み返しました。なんだかとても難しく思いましたが、「野鳥が住みやすい所は人間も住みやすい所なんだ。そういう環境をみんなで作ろう」と読み替えるとよく分かりました。

ではそのために何をすればいいのか、または、できるのか、これが本当に難しい。

そこで、だれにもできる環境保護活動を教育の現場から考えてみました。

自然情報を提供しよう

環境問題を話すときに、必ず出てくる言葉に地球の温暖化、熱帯雨林の減少、オゾン層の破壊等があります。聞いているほうは、「なんだか大変そうだけれど、自分の身の回りでは、まだまだ大丈夫だろう」と思っている人が大多数でしょう。地球規模で考えることは大切ですが、日常生活の中で考えるには規模が大きすぎるようで、自分の問題としてとらえにくいような気がします。

もっと日常生活の中で、自分の問題としてとらえることができるようにはならないのでしょうか。そのためには、身の回りの自然を知ることではないでしょうか。そこで、「身の回りの自然(野鳥)情報を、身の回りの人々にどんどん提供すること」が、鳥見人の私たちだれもができる環境保護の一方策と考えます。



(中村 治)

だれに？

やはりある程度効果を期待するとすると、今住んでいる市町村の環境保全課、生涯学習課(以前の社会教育課)、公民館、児童館、そして小・中学校です。マンションに住んでいる人なら、掲示板にもいいでしょう。

提供する先によって、「身の回り」の規模を調整してください。小学校に提供するのに市全体の内容では、小学生にとって身の回りにはなりません。

私の経験では、生涯学習課や小・中学校ではそのような情報を欲しているように思えます。特に小学校では、その学区内の自然情報を必要としています。それは、生活科や理科の授業の中で、或は環境教育の中で身近な自然観察が重視されて来たからです。しかしこれらの教科書などに載っている鳥は、キビタキやオオルリなどが多く、身近とは言えません。

さて郵送する時は、学校なら宛先は「理科主任」が良いでしょう。

どんな情報を？

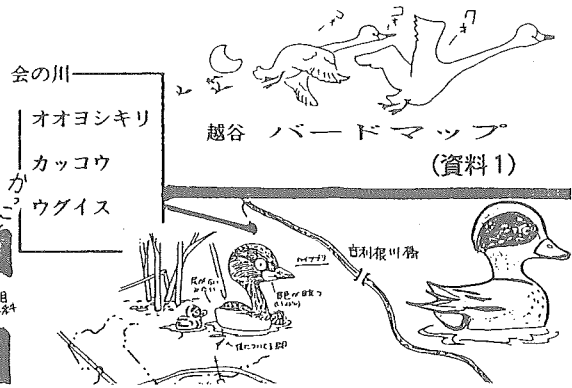
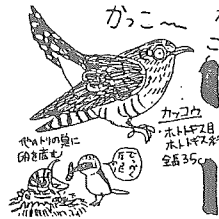
身の回りの情報ですから、普通種がよいのです。これなら通勤途上でも確認できます。それでも年間に40~50種にはなりません。特定の季節でも20種はいくのではないのでしょうか。

20種でも、初めて知った人たちは「へえ、そんなにいるのですか」と異口同音に驚き、感激します。大事なことは、提供者自身が確認した鳥である事です。

この情報を、季節ごとに分けたリストにすると喜ばれます(資料2)。リストには、観察期間と作成者も明示してください。

さらに地図をそえ、よく観察できる場所は

オオヨシキリやセッカは、夏期いたる所の水田や葦原で鳴いている。



三郷の鳥類リスト

(資料2)

NO	種名	春	夏	秋	冬	餌台へ
1	●カイツブリ	○	○	○	○	
2	●カワウ	○		○	○	
3	●ゴイサギ	○	○	○	○	
4	ダイサギ	○	○	○	○	
27	●キジバト	○	○	○	○	
28	カッコウ			○	○	
29	コミミズク				○	
30	カワセミ				○	

NO	種名	春	夏	秋	冬	餌台へ
31	コゲラ				○	
32	●ヒバリ	○	○	○	○	
33	●ツバメ	○	○	○		
34	●イワツバメ	○	○			
35	●ハクセキレイ	○	○	○	○	
36	タヒバリ				○	
37	ヒヨドリ	○	○	○	○	よく来る
*1	●ドバト	○	○	○	○	

上のリストは、平成3年4月1日より平成6年2月20日までの三郷市内に於いて、生息を確認した鳥種である。○印は、さつき小の児童たちや三郷市・三郷市教育委員会主催「生涯学習フェスタ」参加者と共に確認した。●印は、三郷市内に於いては、季節と場所を選べば容易に観察できる。

絵で説明するとインパクトがあります。私は、富士鷹なすびさんの絵を使わせてもらいました(資料1)。

写真が得意な人は、それも添える事です。写真はプリントのほうが、掲示用の○○マップに直接貼れて使いやすいようです。

文字は、リストも地図も全てワープロ等を使って印刷体にして下さい。直筆のほうが心はこもっているのですが、相手に読んでもらう、利用してもらおう事が前提ならば、どうしても印刷体のほうが説得力があります。それに、フロッピーに保存しておけば、改訂版や増補版を作るときに容易です。とにかく印刷体で書く、この事は絶対にお願ひしたいところです。

準備をしよう

身の回りにフィールドをもち、1年を通じ

・・・(日本野鳥の会 埼玉県支部 山部直喜)

て観察しておきましょう。月に何度か、そこに行く必要があります。といっても、1回に1時間かけるより、5分でもよいから、ちょくちょく再々がよいのです。

私は、最寄りの駅から勤務場所までのコースをいろいろ変えることにより、途中にある小学校と勤務先に情報を提供しています。時間的には、3～5分ぐらいの観察時間です。ネクタイをしたままの何の用意も入らない、気楽なバードウォッチングです。珍鳥はまったく必要ありません。

記録は必ずとってください。その記録は、あなただけしか知らない大変貴重な郷土資料です。また、断片的なものであっても、少しずつ積み重ねていくと、そのデータが、何かを語ってくれるようになります。

(山部直喜)

地鳴きコーナー

正月から4月まで

新部泰治（浦和市）

正月休み、庭のハナミズキにメジロを見つけ、輪切りにしたミカンを枝に刺してみたところ、2羽で食べに来るようになりました。

そこで、バードテーブルを作り、ヒマワリ、エゴマの種、ミカン、リンゴ、ジュースなどを置くようにしたら、メジロに加えて、シジュウカラ、ヒヨドリも頻繁に来て、私の毎朝の餌やりが始まりました。

メジロがミカンを食べながら頻繁にフンをするのではかってみたら、11.5分に7回でした。私がいくらビールを飲んでも、こんなにトイレには行きませんよ。

3月になってからツグミやカワラヒワも来るようになりましたが、もう次の初冬まで餌はおあずけとします。英国製のバードテーブル、米国産のリンゴやジュース、タイ米、多分東南アジア産の種の類。来シーズンは、鳥達もこのくらい国際色豊かに数多く飛来してほしいと願っている所です。

そんなきっかけで、今年入会した56才の新人です。

初めて参加した2月の三室の探鳥会では、親切な指導を受けて、19種の鳥を見る事ができました。見事な容姿のダゲリヤ、キンクロ

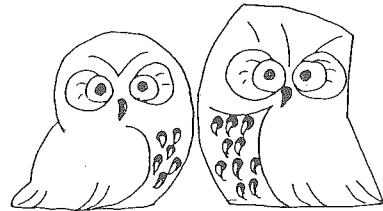
ハジロなどが印象的でした。

3月は26種も見られ、2月の時ははっきりみられなかったバンも、全身を見せてくれましたし、コチドリも可愛かった。

カシラダカが鷹の仲間と思いきや、説明を聞いて、見て、納得。オナガ、ムクドリなどがかわるがわる水浴するシーンも興味深く、近くに逃げ込める木が繁っている事、浅からず深からず、鳥達に適した水深である事などの説明を聞いて、鳥の習性が良く分かりました。

4月は21種。こんなに多くの種類の鳥が私などに分かるものかと、驚いています。

毎日が楽しくて、心豊かさを覚えるひとときと、新しい発見と知識がうれしく、入会して3ヵ月の感動を書いて見ました。



（高橋 美保子）

白頭鷺の英名講座〈番外編〉

鳥には第三のまぶたがある？

答えはイエス、その通りです。先日、日光の探鳥会で神橋の下の大谷川でカワガラスがじっくりと観察できましたが、その時かなり頻繁に目を白黒させていたのに気付かれた方も多いかとおもいます。これはいわゆる白目とは違って目の全面が白く見えます。これが「第三のまぶた」とよばれるもので、正式には「瞬膜」といいます。じつは半透明で水中で目の保護をするものです。

英語では Nictitating membrane - まばたく（瞬く）薄い膜 - 即ち、瞬膜ということでしょう。ところが一般的には難解な言葉を避けてか、英語民族ではビルトイン・サンングラ

ス。水中眼鏡、またはウインドシールド等と言われて水、風、光などから目を保護する目的をうまく表現しています。

瞬膜は鳥類をはじめ他の動物にもあるのですが、バードウォッチャーにもっとも身近なものはカワガラスの瞬膜でしょう。こんどカワガラスを見付けたら必ずこの瞬膜をよく観察しましょう。

ついでながらカワガラスの英名は Brown Dipper - 茶色の潜り鳥でその色と習性をよく表しています。カワガラスの瞬膜がなぜ際立って目立つのかは私もわかりません。何方かご教示下されれば幸いです。

オレゴンバードウォッチングツアー
高草木泰行（新座市）

気をつけての声に見送られて税関も通過、シアトル空港に到着。

出迎えたアメリカ在住ツアーリーダーのビル・タイスは、筋肉質で背が高く、ポイントは知り尽くしている。

1行8名を乗せたワゴン車は、右側通行時速75マイルで、一本道を走る。北緯45度は、北海道の北端に当たるが、想像より寒くない。空は厚い雲と薄い雲。川は広く、水は豊富に流れ、樹木は新緑一面の高原が360度見渡せる。

日本のハイウェイのような一般道だが、公園と勘違いするほどの木立の中を、松井支部長の通訳で探鳥地へ向かう。ツアー期間中各人1種は珍鳥を探すこと、何種見られるか予想して、当れば賞品が出るとか話ながら。

全走行距離は1,275マイル、約2,000km、1日平均300kmも走り回った。

雄大な自然保護地では、目と鼻を大きく開けたヒメコンドルが待っていた。松林の中では、エボシクマガラを見て、静かに喜んだ。子育て中のミソサザイが餌を運ぶ。湖では、ミサゴが何回もダイビング。芝草では、シジュウカラガンの群れ。湿地帯でフタオビチドリやダイシャクシギ。

海ではミヤコドリ。シロペリカンも飛ぶ。早朝ブッシュの道を1時間昇り、1,700mの丘の上で、この時期、この時間にしかない貴重なキジオリイチョウのディスプレイに感激

し、4羽のハクトウワシも空を舞った。

宿泊はモーテル。朝食は軽く、昼は野外。夕食はレストランを利用したが、これが苦楽の連続。自分で注文しなくてはならない。愛敬のあるウエイトレスが笑ったり困ったりの間、やっとOKが出て、いざ運んできた料理の量の多さに驚き、ビールで盛り上がる。

リーダーの自宅で昼食をご馳走になった。窓のハチドリを見ながらの手料理に満足した上、10才の女の子と奥さんの芝生の上でのバイオリン演奏の歓迎に感動と感謝。

アメリカ風を実感したといえば、道行く人も私達にニコリと挨拶し、その個性的な表情に豊かさを感じる。ホテルの水も、出るか出ないか、中間がないのも、お国柄か。

時差のために野外のトイレを使用するが、必ず紙が備えてあるのに感心。滝壺でジャケットを来て身を暖めている私達の回りで、半袖や半ズボンの若者もいる。皮下脂肪の違いかと思う。

1種でも多く見せたいと、リーダーが運転中も目と耳を配った結果、探鳥種は178種。1日平均65種。朝から晩までの疲労も出て、鳥合せの数がなかなか合わない。最後の夜はぐっすり眠って、帰国の空へ。

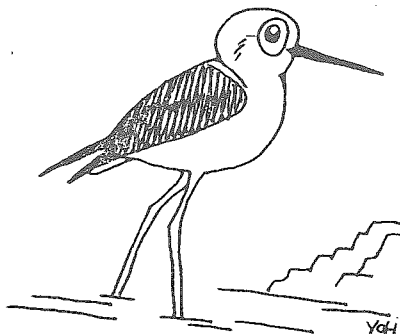
ところが、ここでもうひとつおまけがついて、出発2時間半で飛行機のエンジン故障。急遽アンカレッジ空港に着陸。思いがけずにヒルトンホテルで白夜に雪の山並みを見た。

翌日無事に自宅に帰り着き、風呂に入った後の竹のご飯とお茶に、ほっと安堵した。



鳥の観察日記

- カワウ ◇4月1日午前7時8分、長瀨町上空を皆野町方向へ6羽(井上幹男)。
 アマサギ ◇5月6日、坂戸市入西の水田で1羽。耕運機について歩き、耕した土の中からミミズを捕食していた(増尾隆・節子)。◇5月6日、大宮市塚本町の水田で4羽。代かき中の耕運機の後をムクドリ10数羽と共にくっついて歩く(中司隆由)。
 オオタカ ◇5月4日、長瀨町の宝登山周辺で1羽(井上幹男)。
 ハイタカ ◇5月4日、長瀨町の宝登山周辺で1羽(井上幹男)。
 ノスリ ◇5月4日、長瀨町の宝登山周辺で1羽(井上幹男)。
 サシバ ◇4月8日、長瀨町の宝登山で1羽。上空を旋回する(井上幹男)。
 ツミ ◇5月3日、深谷市の仙元山公園で♂♀各1羽。鳴きながら飛び回っていた(新井巖)。◇5月7日、大宮市日進1丁目で♀1羽。カラスにモビングされた後、杉の枝にとまる(浅見健一)。5月11日、同所で1羽(森本國夫)。
 チョウゲンボウ ◇5月6日、坂戸市入西で♂1羽。ホバリングする(増尾隆・節子)。
 ムナグロ ◇5月4日、川越市鴨田の水を張ったばかりの水田で約20羽。内7羽が夏羽(本多滋和・幸枝)。
 チュウシャクシギ ◇4月月28日、戸田市道満荒川第一調節池で1羽(高橋達也)。◇5



- 月6日、大宮市昭和地区で4羽。2羽ずつに分かれ、近づくと互いに威嚇しあっていた(中司隆由)。
 シラコバト ◇5月4日、吹上町大芦の農家の屋敷林で2羽(杉山恵次)。
 キジバト ◇5月3日、深谷市の仙元山公園ソフトボール場の柳の木で抱卵していたが、無事ヒナ2羽が誕生していた。こんなうるさい所で…(新井巖)。
 ツツドリ ◇4月22日、浦和市秋ヶ瀬のピクニックの森で1羽。鳴いていた(鈴木啓紀)。
 ヤマセミ ◇5月9日、日高市の高麗川巾着田で♀1羽。対岸の高い位置にある巣穴へ入りました。魚は運んでないようでしたので、まだヒナは孵っていないのでしょうか(本多幸枝)。
 アオゲラ ◇4月15日、日高市の聖天院前の木で2羽。1羽が上の枝にいるもう1羽の所まで登って行き、向かい合って頭を横に振っていた(小林堅一)。
 アカゲラ ◇4月17日、大宮市日進1丁目で♂1羽(森本國夫)。
 サンショウクイ ◇5月3日、浦和市秋ヶ瀬の子供の森で♂1羽(藤掛保司)。◇5月4日、長瀨町の宝登山周辺で♂1羽。尾羽がなかった(井上幹男)。◇5月11日、大宮市西新井の森で1羽。森の上を鳴きながら飛び回る(浅見徹)。
 コルリ ◇4月18日早朝、行田市のさきたま古墳公園内の中ノ山古墳で1羽。19日、同所で梅の木の枝先でさえずる(逸見嶮)。◇4月29日、長瀨町の岩根神社駐車場付近で♀1羽、♂1羽。♂は枝先で美しい声で鳴く。曇天だったので黑白のコントラストになって見えた(内藤義雄・洋子)。
 ルリビタキ ◇4月8日、長瀨町の宝登山で♂1羽。さえずる(井上幹男)。
 ノビタキ ◇5月4日、吹上町の大芦水道タンの電線上で♂1羽(杉山恵次)。
 トラツグミ ◇3月13日、大宮市日進1丁目で1羽。晴天の昼間なのに桜の大木の下で鳴いていた(森本國夫)。
 クロツグミ ◇4月22日、浦和市秋ヶ瀬の子供の森で♂1羽(鈴木啓紀)。

アカハラ ◇4月18日、行田市のさきたま古墳公園で3羽(逸見嶮)。◇4月27日、大宮市日進1丁目で1羽(森本國夫)。4月29日、同所で2羽。木の梢より羽虫をさかんにフライングキャッチしていた(浅見健一)。

シロハラ ◇4月27日、大宮市日進1丁目で1羽(森本國夫)。

オオヨシキリ(初認) ◇4月28日、戸田市道満で2羽(高橋達也)。

エゾムシクイ ◇4月26日、大宮市日進1丁目で1羽。5月9日にも同所で1羽(森本國夫)。

センダイムシクイ ◇4月18日早朝、行田市のさきたま古墳公園内の鉄砲山古墳で1羽(逸見嶮)。◇4月22日、行田市埼玉の前玉神社裏の林で鳴きながら枝移りしていた(逸見嶮)。◇4月22日、長瀨町の宝登山で1羽(井上幹男)。◇4月29日、長瀨町の岩根神社駐車場で「チヨチヨビー」とよく鳴いていた(内藤義雄・洋子)。◇5月4日、大宮市日進1丁目で1羽。盛んにさえずる(浅見健一)。◇5月11日、大宮市大成町2丁目で1羽(森本國夫)。

キビタキ ◇4月22日、長瀨町の宝登山で♂1羽。さえずる(井上幹男)。◇4月28日、戸田市の戸田公園で♂1羽(高橋達也)。◇5月8日、大宮市西新井の森で♂1羽。道に張り出した小枝にとまっていた(浅見徹)。◇5月9日早朝、大宮市東大宮で♂1羽。高いキレイな声で鳴いたり飛び回っていた。10日午後5時15分、自宅の庭の池で♂1羽が水浴びをする(墨江雄三・光子)。

オオルリ ◇4月22日、長瀨町の宝登山で♂1羽。さえずる(井上幹男)。◇5月5日、長



(中村 治)

瀨町の長瀨オートキャンプ場付近で♂1羽。さえずる(森本國夫)。◇5月12日、寄居町赤浜の自宅でさえずりを聞く(保坂達司)。

コサメビタキ ◇4月28日、長瀨町の宝登山周辺で♂1羽。さえずる(井上幹男)。

ヒガラ ◇3月13日、大宮市日進1丁目で3羽以上(森本國夫)。

ヤマガラ ◇4月19日、大宮市日進1丁目で1羽(森本國夫)。

ゴジュウカラ ◇4月8日、長瀨町の宝登山で1羽(井上幹男)。

マヒワ ◇4月22日、長瀨町の宝登山で約15羽(井上幹男)。

ベニマシコ ◇4月8日、長瀨町の宝登山で♀1羽(井上幹男)。

イカル ◇4月29日、長瀨町の岩根神社の桜の枝中で「キコキー、キコキー」と繰り返して鳴く(内藤義雄・洋子)。

カケス ◇4月6日、大宮市日進1丁目で2羽(森本國夫)。◇4月18日、行田市のさきたま古墳公園内各所で「ギャーギャー」鳴く(逸見嶮)。

表紙の写真

『気ままにバードウォッチング』掲載作品

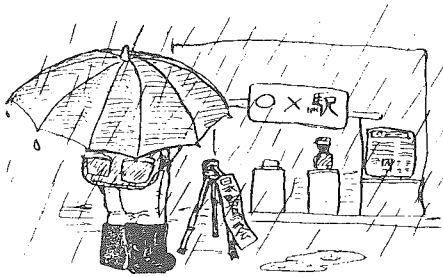
モズ(モズ科)

見沼田んぼの畑地の一叢の植木の中で、子育ての真っ最中。オスが餌運びの後にこの枝にとまるので車の中から撮影していたが、どうしてもバックが空になってしまい、画面全体の色が悪い。

幸い天井が開く車なので、屋根の上にレンズを出し、車内に一脚を伸ばした。

目線の位置が高くなったので、うまい具合に遠く林がバックに入り、きれいな画面になってくれた。佐久間孝夫(浦和市)

行事あんない



(渡辺 敦)

上尾市・八枝神社探鳥会

期日：7月1日(土)

詳細は6月号をご覧ください。
お問い合わせは、6月号をご覧ください。

山梨県・富士五合目探鳥会(要予約)

期日：7月1日(土)～2日(日)

定員に達しましたので締切りました。

熊谷・大麻生定例探鳥会

期日：7月9日(日)

集合：午前9時30分 秩父鉄道大麻生駅前
交通：秩父鉄道熊谷9:11発または秩父鉄道寄居9:03発に乗車
担当：菱沼(一)、森本、小池、田口、菱沼(洋)、齊藤、中島(章)、和田、石井(博)

見どころ：水前寺公園のササゴイは疑似餌を使って、魚をおびきよせて捕まえることで知られていますが、明戸のササゴイは、ただひたすら待ち構えるという、ただのササゴイです。そんなササゴイでよかったです見に来てください。晴れると暑い河原です。防暑対策は充分に。

浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：7月16日(日)

集合：午前8時15分 京浜東北線北浦和駅東口(集合後、バスで現地へ)または、午前9時 浦和市立郷土博物館前

特別な場合を除いて予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をおかけください。私達もあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費は一般100円。会員と中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時頃。小雨決行です。

自然保護のため、できるだけ電車バスなどをご利用のうえ、指定の集合場所までおいでください。

後援：浦和市立郷土博物館

担当：楠見、福井、渡辺(周)、手塚、笠原、伊藤、若林、岡部、倉林、嶋田、兼元
見どころ：暑い三室です。夏休み前の静かな三室です。しかし6月に続いて、カルガモの親子が可愛い列をつくっています。カッコウが斜面林で鳴き、電線のムクドリの中のコムドリがまがっていたり。鳥見が終わったら見沼たんぼの木陰で濁いたのを潤すのもいいですね。

浦川町・武蔵丘陵森林公園探鳥会

期日：7月16日(日)

集合：午前10時 森林公園南口駐車場
交通：東武東上線森林公園駅より森林公園南口行き9:43発バスに乗り、終点下車
費用：入園料390円(小人80円)
担当：佐久間、岡安、内藤、榎本、小淵、篠原(東)、渡辺(光)、青山
見どころ：この時季鳥は少ない。そこで、この花は、昆虫は、蝶はと広くネイチャーウォッチング。これらに詳しい方の手助け、ご協力をお願いします。昨年も見たオオムラサキ、もちろんその美しい姿を見せてくれます。本当に自然界はいろいろとどり、楽しいですよ。

狭山市・入間川定例探鳥会

期日：7月23日(日)

集合：午前9時 西武新宿線狭山市駅西口
交通：西武新宿線所沢8:45発、本川越8:43発

に乗車

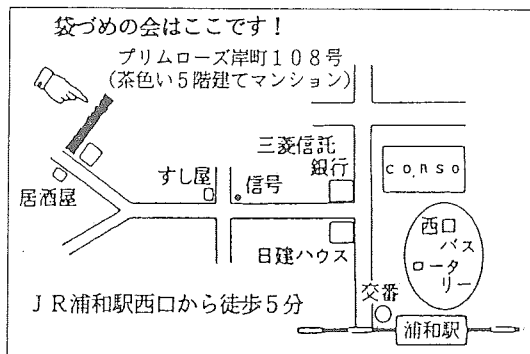
担当：長谷部、三田、石井（幸）、佐久間、小野、中村（祐）、山本、高草木、藤掛
見どころ：身近な鳥たちを探しながら河原を1 Kmほど歩きます。鳥の少ない季節、植物や昆虫などについて知識をお持ちの方、力を貸してください。いつもとはちがった角度から自然をみるのは観察力が広がるチャンスと思っています。暑いからなどといわずにきてください。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：7月29日（土）午後1時～2時ごろ
会場：支部事務局108号室
案内：この時季が最も鳥がいない。人間の俗世界を離れて避暑に行っているのです。こんなときは、鳥談義をしながら手だけを動かして、いつときの奉仕活動への参加をお願いします。2600人以上にも増えた会員の方々を結ぶ会報を封筒に入れる大切な仕事です。

野鳥写真クラブ定例会

とき：7月29日（土）午後2時ごろ～5時
会場：『しらこぼと』袋づめの会と同じ
案内：できそうでできない納涼探鳥会、そんな思いをインドアで実現しようではありませんか。自慢のビデオ&スライドを持参どうぞ。それだけじゃ納涼にならない、まあそんなことを言わずに来てください。考えましょ。

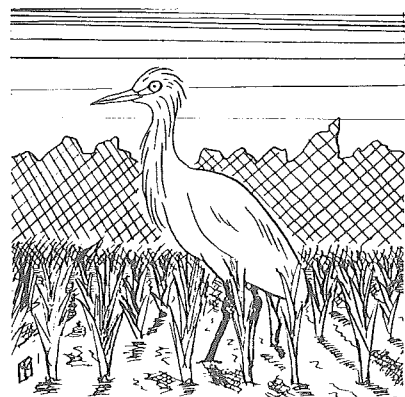


白頭鷺の英名講座<八開編>

とき：7月30日（日）午後1時～3時30分
会場：埼玉県自然学習センター TEL 0485-93-2891（石戸宿定例探鳥会の場所）
交通：JR高崎線北本駅下車、西口よりタクシーにて約10分。無料駐車場あり。
講師：白頭鷺こと松井昭吾支部長
案内：『しらこぼと』でおなじみの“白頭鷺の英名講座”、鳥の英名と日本名、エピソードなどを交えて語ってもらう肩のこらないセミナーです。英名を知ることによってバードウォッチングの楽しみが増えればと企画しました。多数の参加をお待ちしています。

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：8月6日（日）
集合：午前8時30分 北本自然観察公園駐車場、または午前8時15分JR高崎線北本駅改札口、集合後タクシーで現地へ、リーダーの指示により分乗して下さい。
担当：岡安、榎本、内藤、吉原、永野（安）、永野（京）、川那部
見どころ：高尾の池でヨシゴイ、バン、ヒクイナ、オオヨシキリなど水辺の鳥に期待。炎天のアシ原は風が吹き抜けても暑い。防暑対策を十分に。アフターは学習センターでビデオ鑑賞はいかがですか。フィールドで見られないこの時季に別の角度で楽しんでみませんか。何本か用意しています。



(神場 眞文)

行事報告



12月18日(日) 滑川町 武蔵丘陵森林公園

参加: 70人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ オシドリ マガモ カルガモ コガモ トモエガモ トビ ハイタカ チョウゲンボウ キジバト アオバト アカゲラ コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ルリビタキ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス キクイタダキ エナガ コガラ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (43種) 「オシドリ」を見るゾ!というコース設定。ここはスタート時刻が遅く、お昼までいかに解散地点まで、皆さんを連れていくかがリーダーの技術。ポイントは押さえ、途中は無視して進もうとするが、ルリビタキが出たりして、時間は過ぎる。リーダーがシロハラを見つけて、後の人を呼んでいるのに、その人たちは、なんとバッチリとアオバトを見ているではないか!終わってみると43種。リーダーは半分も見えてないゾ。(吉原俊雄)

2月19日(日) 滑川町 武蔵丘陵森林公園

参加: 63人 天気: 晴

カワウ オシドリ マガモ カルガモ コガモ オオタカ ハイタカ ノスリ コジュケイ キジバト アオゲラ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ルリビタキ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス キクイタダキ エナガ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ ウソ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (37種) 解散地点は「梅まつり」の会場(甘酒がでる)。長沼では当然オシドリは見られたが、日向に出てきたのを見たいとねばりつつ、前回いたトモエガモのメスをさがすが不在。途中ではノスリとハイタカの空中戦?を全員でじっくり見たりと、満足満足の探鳥会だった。ところが、後の人たちは展望レ

ソランの裏でじっくりウソを見たとのこと。やっぱり悔しいリーダーだった。無料の甘酒はおいしかったですヨ。(吉原俊雄)

3月19日(日) 浦和市 三室地区

参加: 70人 天気: 晴

カワウ コサギ マガモ カルガモ コガモ オナガガモ キンクロハジロ コジュケイ バンクイナ コチドリ イソシギ タシギ キジバト セグロカモメ コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ シロハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (37種) 雨上がりの花と鳥といった探鳥会。農道の水たまりでは、ツグミやオナガ、スズメ、ムクドリが気持ちよく水浴びをされていて、参加者の歓声をあげた。また、水たまりの中に木陰から、アカハラが飛び出したりして、芝川で前回に引き続いて出現したクイナ共々全員楽しんだ。参加者も多く、また新しい参加者が多く、活気のある集いだった。(楠見邦博)

3月21日(火、休) 秩父市 羊山公園

参加: 63人 天気: 晴

トビ オオタカ ノスリ コジュケイ キジバト アオゲラ アカゲラ コゲラ イワツバメ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ミソサザイ ジョウビタキ ツグミ ウグイス エナガ コガラ ヒガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ ウソ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (32種) 今年はどちらかというと、ハズレ年。最初の駐車場でオオタカやノスリが出て、幸先が良いかと思ったが、その後いまいち鳥の出が悪い。でも、何とかウソも見えたり、今年最初のイワツバメにも会えた。気持ちの良い山道を散歩し、カエルの卵と盛大な杉の花粉で春を堪能した一日だった。(海老原美夫)

3月25日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 18人

赤塚義正、荒木恒夫、石塚文雄、石塚孝子、岩上照代、海老原教子、尾崎甲四郎、工藤洋三、倉林宗太郎、桜庭 勇、篠原東彦、鈴木啓紀、藤掛保司、藤野富代、松元達夫、安原久子、谷津弘子、渡辺喜八郎

3月26日(日) 狭山市 入間川

雪のため中止。

4月1日(土) 浦和市 見沼ヘルシーロード

参加: 35人 天気: 曇

カワウ コサギ カルガモ オオタカ コジュケイ キジ コチドリ キジバト コゲラ ヒバリ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (29種) 集合地点で、オオタカとイワツバメを皆で見られ、幸先のよいスタート。曇っていたけど、暖かい日で、色々な草花が咲く大崎周辺の春を楽しむことができた。欲をいえば、桜の花が開き始めていなかったこととツバメに会えなかったことが、ちょっと残念。「MAICCA」「SO.YA.NA」。 (伊藤芳晴)

4月2日(日) 川口市 差間

参加: 22人 天気: 曇

カワウ コサギ カルガモ オオタカ チョウゲンボウ キジ コチドリ キジバト コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ツグミ セッカ シジュウカラ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (28種) 肌寒い空にツバメ、イワツバメが飛んで、カシラダカ、オオジュリンは夏羽に衣替え。ヒバリは空高く舞い上がる。桜のつぼみも震える花冷えの1日だったが、季節は巡って春。 (手塚正義)

4月9日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 87人 天気: 曇

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ コガモ トビ ハイタカ ノスリ サシバ ハヤブサ チョウゲンボウ イカルチド

リ イソシギ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ツグミ ウグイス コガラ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ マヒワ ニュウナイスズメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (41種) 程良く花曇りで、お花見日和となった。参加者も87名と大盛況。開始早々に猛禽が2羽出現し、確認するとサシバであった。これが猛禽のオンパレードの始まり。その後、トビ、ハイタカ、ノスリ、チョウゲンボウ、そしてハヤブサまで現われた。お目当てのニュウナイスズメもいつもの場所でパッチリ確認。マヒワも混じって大感激。解散後は、川原やサクラの下とお気に入りの場所でお弁当。(菱沼一充)

4月22日(土) 滑川町 武蔵丘陵森林公園

参加: 27人 天気: 曇

カイツブリ カワウ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ホシハジロ キンクロハジロ ハイタカ コジュケイ キジバト カワセミ アオゲラ コゲラ ヒヨドリ モズ ツグミ ウグイス エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ カワラヒワ シメ スズメ ハシボソガラス ハシブトガラス (29種) 4月の森林公園探鳥会は初めて。ワクワクしながらのスタートであったが、天気が良くなかったためか、珍しい鳥には会えなかった。それでも地面に降りて盛んに採餌しているカシラダカの夏羽がきれいだったこと、道路より下の松林の中をハイタカが低く飛んだことで十分満足できた。(吉原俊雄)

4月23日(日) 寄居町 鐘撞堂山

参加: 16人 天気: 曇時々晴

カイツブリ カルガモ トビ コジュケイ キジ キジバト コゲラ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ ツグミ ウグイス センダイムシクイ オオルリ エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (27種) 天気もまずまずで探鳥会にはよい日和となった。出現鳥のほとんどが、声だけといったものであり、参加者一同は少し欲求不満気味だった。しかし、大正池の湖畔では、オオルリの美声を楽しむことができ、バテ気味の皆さんもほっと一息つくことができた。(田口浩司)

連絡帳

●探鳥会には更に努力します

『野鳥』誌5月号の「会員フォーラム」欄に、埼玉県「鈴木由美子」さんという名前で、探鳥会で不親切にされた話が掲載されました。当支部の探鳥会のなごやかさは、全国どこの支部にも負けないものとひそかに自負していましたが、少なくともお一人はそういう印象を持たれたという事にショックを受けて、おおいに反省させられました。

ところが、本部編集室との話し合いで、この名前は匿名希望の投稿者に仮につけた偽名であり、当支部に実在する同名の会員とは全く無関係である事などが明らかになりました。

『野鳥』誌8月号で、本部編集室のお詫びとともに、埼玉県支部の探鳥会の取り組み方を紹介する文章を掲載します。

●大麻生野鳥の森の保護を要望

定例探鳥会でおなじみ的大麻生野鳥の森について、菱沼一充幹事から、サバイバルゲームが行われていて危険であり、車止め等の設備も不適切なので、何とかしたいとの意見が提出され、役員会で相談の結果、支部として関係各所に要望していく事になりました。

事務局が県自然保護課、公園緑地課、北部公園建設事務所と折衝し、車止めの設置場所や設置方法の見直し、自然観察以外の行為を禁止する看板を立てることなどが約束されました。

野鳥の森は県立荒川大麻生公園内ではあるが、まだ民有地も混在しているなどの問題と予算の関係もあり、期限は明言できないものの、なんとか知恵を絞りたいと、積極的な対応です。

●バードソン公式チームメンバー決定

桜庭勇(大宮市)、佐藤進(大宮市)、新堂克浩(浦和市)、高松格(与野市)の4名と、マネージャー格で中島康夫普及部長(蓮田市)という、あの迫力おじさん達グループです。こわがらずにご声援をお願いします。

●7月の土曜日当番(2時~6時)

- 1日 都合により、事務局休みます。
- 8日 阿久沢キクエ 兼元義裕
- 15日 山部直喜 海老原美夫(編集会議)
- 22日 中島章二 永野京子(校正の日)
- 29日 袋づめの会(1時から)

●会員数は

6月1日現在 2,665人です。

活動報告

3月11日 埼玉県自然学習センターの意見交換会に出席(岡安征也、内藤義雄)。

5月11日 建設省荒川上流工事事務所(川越市)の「荒川に関する懇談会」に出席(松井昭吾支部長)。

5月18日 総会講師の件、本部総務部と打ち合わせ(事務局)。

5月20日 6月号校正(海老原美夫、川那部康子、工藤洋三)。

5月21日 役員会議(司会:石井幸男、大麻生野鳥の森対策・決算と予算案・総会の準備・バードソン・その他)。

5月22日 『野鳥』誌投稿記事につき、渋谷の本部編集室へ(海老原美夫)。

5月24日 県自然保護課で、補助金に関する手続きと、大麻生野鳥の森についての話し合い(事務局)。

編集後記

去年の私は、放浪の旅人でした。インドのガンジス河で朝日を拝んでいました。あれから数ヶ月。すっかり御無沙汰している内に、名字も住まいも変わってしまいました。5月に移った新居は千葉市。周囲には竹林があって、毎朝ウグイスの声で目を覚ますという、なかなかGoodな環境です。新しいフィールドも開拓して行くつもりですが、埼玉にもちょこちょこ顔を出しますので、どうか邪険にしないでください。

(元極楽トンボの黒田佳子→藤原佳子)

『しらこぼと』1994年7月号(第135号) 定価 100円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 松井昭吾 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
 〒336 浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号 郵便振替 00190-3-121130
 印刷 関東図書株式会社 (本誌掲載記事の無断転載はかたくお断わりします)

再生紙使用